

テーマ【 学校林の活動を通じて環境を考える 】

《学習のねらい》

- ・ 林業関係者からの講話と実際の間伐作業、間伐材の利用体験を通じて、環境保全と資源活用の大切さと難しさを知る。

《学習の流れ》

実施時期 11 月～翌年 7 月（学校林での活動は、11 月 6 日）

	学習活動の主な内容	指導のポイント
1	<b>林業従事者からの講話</b> ・ 「地球温暖化問題と森林の役割」や「林の成長と間伐の必要性」を知る。	■ 学校林活動に興味を持たせ、主体的に環境保全に関わる意欲を高めさせる。
2	<b>学校林での間伐作業体験</b> ・ 間伐のようすを見学した後、グループで、安全に配慮しつつ実際に檜の伐採と切り分けた丸太の運び出しを行う。	■ 安全配慮を十分に意識・徹底させる。 ■ 役割分担と協力体制を意識させる。 ■ 体験を通じて、実際の作業の大変さを実感させる。
3	<b>間伐材からの薪づくり</b> ・ 学校で乾かした丸太から薪づくりを行う。	■ 体験を通じて、実際の作業の大変さを実感させる。
4	<b>宿泊行事での作った薪（資源）の活用</b> ・ 自分たちで用意した薪を、宿泊行事での野外炊飯やキャンプファイヤーで活用する。	■ 資源の活用について、実体験を通じて考えさせる。 ■ 生徒同士の協力・協同体験を重ねさせ、他者理解と仲間づくりをすすめる。



《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

学校支援コーディネーター（森林組合）

《成果（生徒の感想や反応 等）》

- ・ 木がズザザザーと倒れた時の達成感はすごかった。
- ・ 知らないところで山を守ってくれている人々のありがたさを学んだ。

